

平成26年度沖縄県学力到達度調査（小学校）の結果

沖縄県教育庁義務教育課

1 趣 旨

沖縄県学力到達度調査は、本県児童生徒一人一人の基礎的・基本的な知識・技能及びこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の定着状況を把握するとともに、各学校における授業改善の充実を図るために実施する。

2 実施期日：平成27年 2 月 25 日（水）

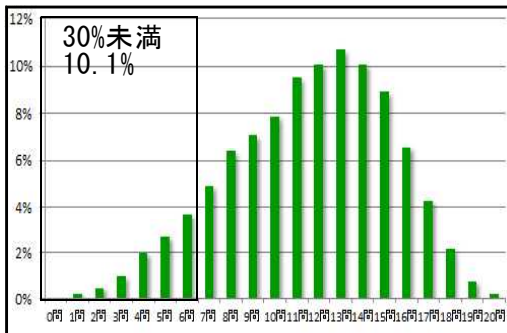
3 対象学年・教科

第3学年	国語、算数	第4学年	算数
第5学年	国語、算数、理科	第6学年	算数

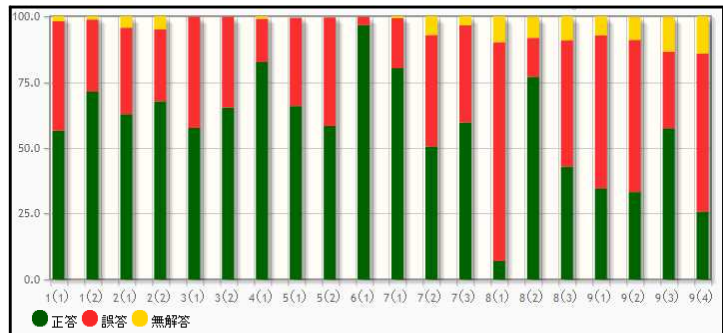
4 実施結果（H27. 3月3日現在）

〈 小学校第3学年国語 〉

	児童数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	15,025	57.7%	37.6%	4.7%



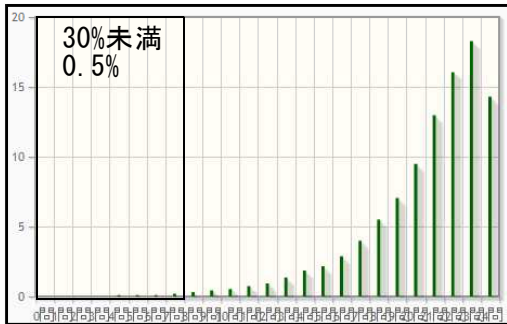
正答数の度数分布



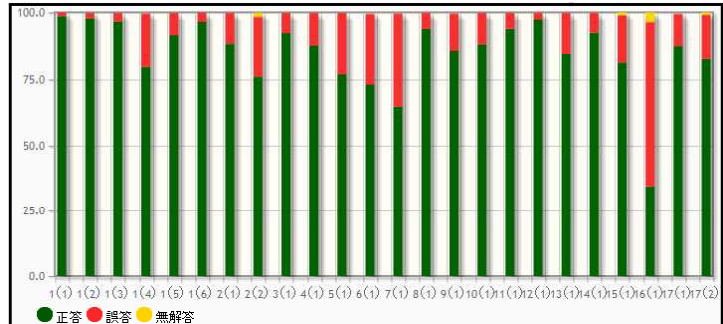
設問ごとの正答率・誤答率・無解答率

〈 小学校第3学年算数 〉

	児童数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	15,028	85.2%	14.3%	0.5%



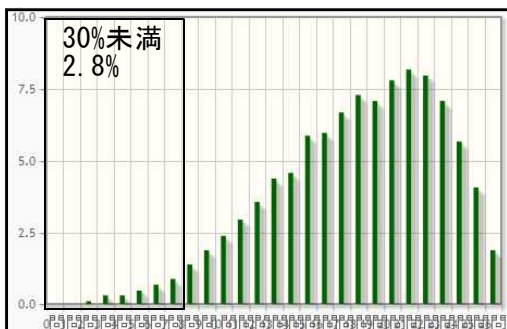
正答数の度数分布



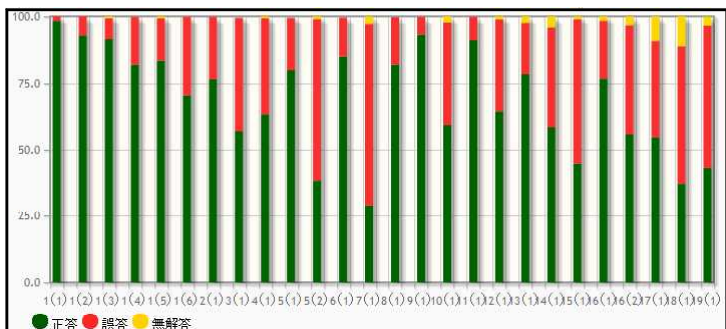
設問ごとの正答率・誤答率・無解答率

〈 小学校第4学年算数 〉

	児童数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	15,351	68.7%	29.5%	1.8%



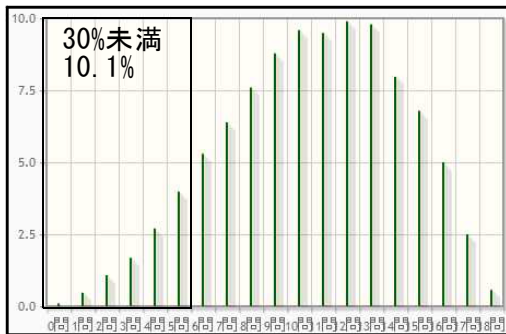
正答数の度数分布



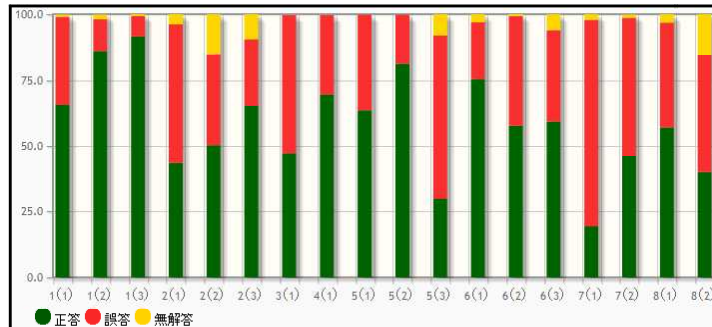
設問ごとの正答率・誤答率・無解答率

〈 小学校第 5 学年国語 〉

	児童数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	15,311	58.3%	37.7%	4.0%



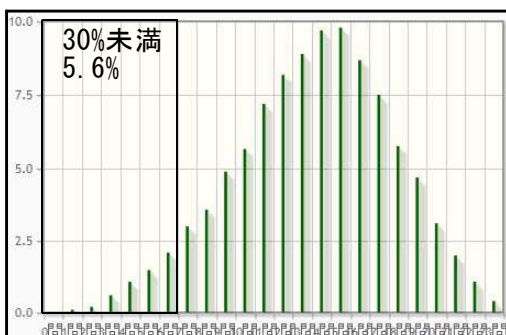
正答数の度数分布



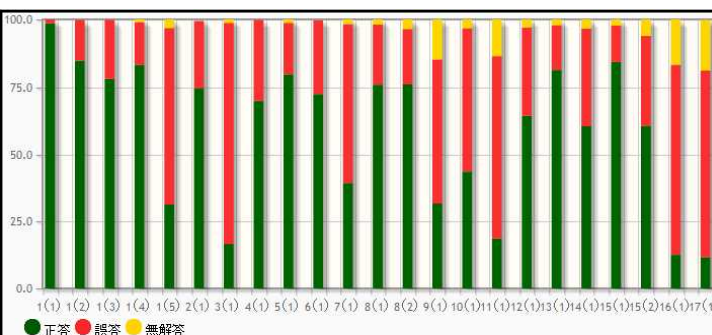
設問ごとの正答率・誤答率・無解答率

〈 小学校第 5 学年算数 〉

	児童数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	15,336	58.8%	36.9%	4.3%



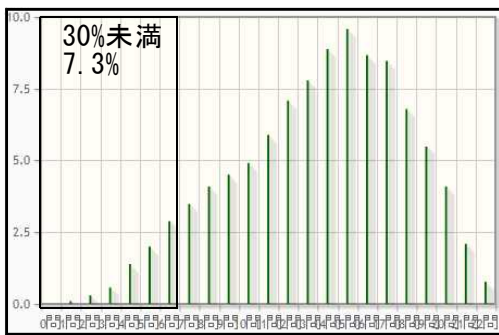
正答数の度数分布



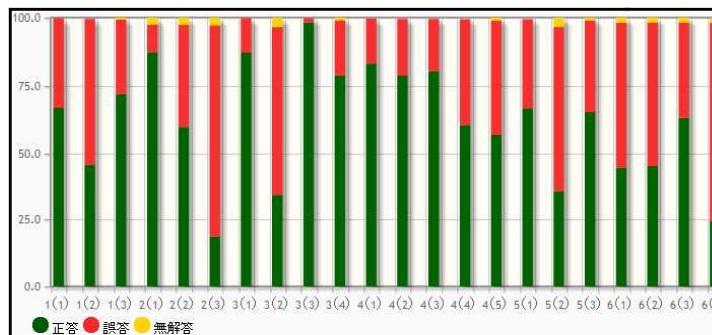
設問ごとの正答率・誤答率・無解答率

〈 小学校第 5 学年理科 〉

	児童数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	15,327	61.6%	37.1%	1.3%



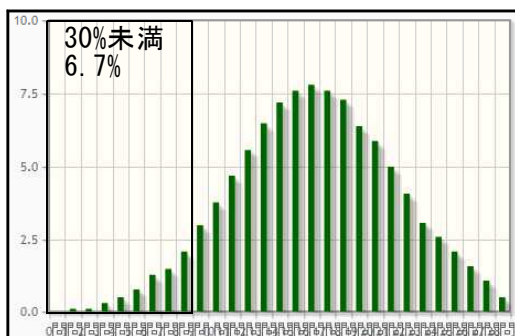
正答数の度数分布



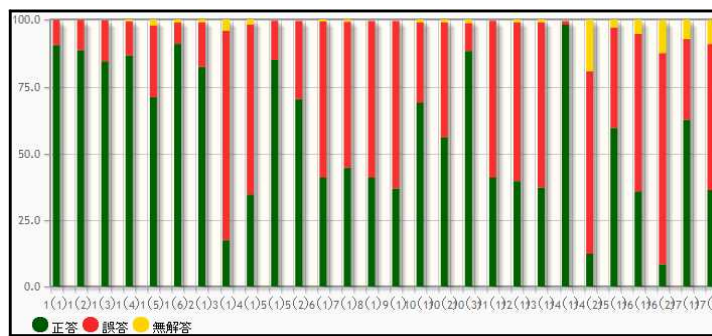
設問ごとの正答率・誤答率・無解答率

〈 小学校第 6 学年算数 〉

	児童数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	15,477	57.6%	39.6%	2.8%



正答数の度数分布



設問ごとの正答率・誤答率・無解答率

**全体的な状況**

- ・小学校第3学年国語の平均正答率は57.7%である。
- ・領域別の平均正答率は、「話すこと・聞くこと」65.5%、「書くこと」42.7%、「読むこと」42.0%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」68.6%である。
- ・平均正答率が80%以上の問題は20問中3問、50%未満の問題は5問である。

**話すこと・聞くこと**

◇考えを述べる時、理由をあげて話すことがよいことを理解している。【七(1) 80.3%】

◆互いの考えの共通点を理解し、まとめることに課題がある。【七(2) 50.6%】

**書くこと**

◆自分の考えの理由を、目的や必要に応じて書くことに課題がある。【七(3) 59.7%】

◆資料を効果的に使い、説明する文章を書くことに課題がある。【九(4) 25.6%】

**読むこと**

◆文章の中の大事な言葉や文を書き抜くことに、特に課題がある。【八(1) 6.9%】

◆事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むことに課題がある。【九(1) 34.6%】

◆目的に応じて、中心となる語や文をとらえて文章を読むことに課題がある。【九(2) 33.4%】

**伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項**

◇指示語を理解し、適切な指示語を選択することができる。【六 96.7%】

◆漢字を正しく読むことや書くことに課題がある。

【一(1)読み：親しい 56.7%】【三(1)画数：通 57.6%】

◆文の中における主語と述語の関係を理解することに課題がある。【五(2) 58.4%】

## □指導のポイント

**授業づくりの工夫**

- ・児童の主体的な学習活動（言語活動）を設定し、一人一人の思考力・判断力・表現力を評価することがこれからの授業づくりの視点には大切である。その際、学習活動が身に付けさせたい力（各領域の指導事項）にふさわしい言語活動になっているか吟味することが重要である。
- ・主体的な学習態度の育成のために、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。単元の導入時に児童が学習活動の全体を見通すことができるような説明や活動を設定する必要がある。

**話すこと・聞くこと****司会の役割を理解し、立場や意図を捉えながら話合いの観点を整理する指導の充実**

司会者は、準備した進行表に沿って進行することからはじめるのもよい。提案者や参加者の発言をよく聞き、考えの中心となることを捉え、それぞれの立場を明確にするためにホワイトボード等を用いるのもよい。小グループから話合いを始めたり、他教科等とも関連付けたりすることで、日常生活に生きて働くよう多くの場を設定することが大切である。

**書くこと****書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて記述する指導の工夫**

文書全体を通して中心となる内容を明確に記述する。理由を述べる表現方法として「なぜかという～」、「その理由は～」、「～のためである」や、分かりやすく説明するために「例えば～」、「事例を挙げると～」、「～などが当たる」などの表現方法を指導し、「A話すこと・聞くこと」(1)と関連を図りながら、日常的に使うことが大切である。

**読むこと****目的に応じて中心となる語や文をとらえ段落相互の関係を押さえる指導の工夫**

文章を読む目的に応じて中心となる語や文をとらえるような学習を工夫することが必要である。中心となる語や文に着目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりするなどして、内容を整理することが大切である。〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イの(ク)と関連付け、指示語や接続語、文末表現に注意して読ませることも必要である。

**伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項****漢字の読み書きや使い方に関する指導の工夫**

当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文書の中で使うことや教師自身が正しい筆順での板書を心がけ日常的に指導することが大切である。

**全体的な状況**

- ・小学校第3学年算数の平均正答率は85.2%である。
- ・平均正答率が80%以上の問題は24問中18問、平均正答率が50%未満の問題は1問である。
- ・領域別の平均正答率は、「数と計算」90.6%、「量と測定」79.3%、「図形」78.5%、「数量関係」86.8%である。

**数と計算**

- ◇基礎的・基本的な内容の問題10問中8問において、平均正答率が85%以上あり、簡単な加法、減法等の計算は、相当数の児童が理解している。
- ◇3つの数の加法、減法の混じった計算は、相当数の児童ができています。【1(6) 96.6%】
- ◇除法を用いることに気付き、あまりのある除法の計算ができるについては、相当数の児童ができています。【3 92.5%】
- ◆3位数×2位数の筆算の仕方を理解し計算ができるについて課題がある。【2(2) 76.2%】
- ◆乗法を用いることに気付き、乗法の計算ができるについては、相当数の児童が理解しているが、平成25年度比、向上がみられない。【4 87.9%】

**量と測定**

- ◇1km=1000mを理解し道のりを求めることは、相当数の児童が理解できている。【8 94.0%】
- ◇示された情報の中から必要な情報を選択し時刻を求めることは、相当数の児童ができています。【15 81.4%】
- ◆1kg=1000gを理解し、(正味の重さ=全体の重さ-容器の重さ)を理解し正味の重さを求める問題について課題がある。【6 73.2%】
- ◆重なった部分を全体の長さから引くことを理解しているかについては改善したが、未だ課題がある。【7 64.6%】

**図形**

- ◇図形の問題は5問中4問において平均正答率が85%以上あり、箱の形をしたものの、辺、面、頂点の数についての理解は改善が図られている。
- ◆円の半径の性質を使って二等辺三角形がかけられることを記述することについて、特に課題がある。【16 34.3%】

**数量関係**

- ◇数量関係の問題は4問中4問において平均正答率が80%以上であり、相当数の児童が理解している。

## □指導のポイント

**授業づくりの工夫**

- ①算数用語は、授業の中だけでなく、日常生活においても意識的に使い理解させるとともに、低学年の段階から自分の考えたことを表現したり、友達に説明したりする学習活動を取り入れることが大切である。
- ②記述で解答する問題の正答率が低く、無解答も増える傾向にある。特に課題のあるものについては、個々の理解を確実に把握するとともに、時間をおいて再度評価することが必要である。(再度指導する際は、躓きのポイントを焦点化し分かり易く示すことが必要である。)

**数と計算**

計算を用いる能力には、基礎的・基本的な計算の技能に習熟することや、計算を生活や学習に活用することなどが含まれる。これまでに児童が身に付けてきた計算の技能は、生活や学習で必要となるものであるし、また、より複雑な計算を進めるための基になるものである。

計算の技能の習熟や維持を図るためには、児童の学習状況をみながら適度の繰り返し練習の機会を設けることが大切である。また、当該学年以降の学年においても必要に応じて繰り返し指導し、基礎的・基本的な計算の技能の習得を図る事が大切である。

**量と測定**

ものの重さの測定では、身近な生活において、水、砂糖、小麦粉等を容器で測定する必要がある場合があることと、(正味の重さ=全体の重さ-容器の重さ)を関係づけながら、具体的な操作や、体験活動を交えて指導することが大切である。

重なりのあるものを測定する場合等は、長さの意味と測定の考えについて、実際に測定する活動を通して、実感的に理解できるよう指導することが大切である。

**図形**

作図の指導においては、単に作図の手順を形式的に指導するだけでなく、その作図が図形のどのような約束や性質を使っているのかを考えて、それを基に作図できるようにすることが大切である。また必要に応じて繰り返し指導し技能の習得を図ることが大切である。

**全体的な状況**

- ・小学校第4学年算数の平均正答率は68.7%である。
- ・平均正答率が80%以上の問題は19問中10問、平均正答率が50%未満の問題は6問である。
- ・領域別の平均正答率は、「数と計算」72.4%、「量と測定」73.4%、「図形」64.0%、「数量関係」55.0%である。

**数と計算**

- ◆平均正答率が85%以上の問題は12問中3問のみで課題がある。
- ◆概数の意味を理解し、四捨五入し概数にすることに課題がある。【3】56.8%】
- ◆答えが小数となる倍の求め方について課題がある。【5(2)】38.2%】
- ◆二通りの支払い方法を比較し、一方のおつりの硬貨の枚数が少なくなる理由を導き出すことに課題がある。【18】37.1%】

**量と測定**

- ◇時間や時刻、角の測定、長さの単位など測定の基本については相当数の児童ができています。【6】85.4%【9】93.4%【11】91.3%】
- ◆日常生活に照らし合わせた時間や時刻を求めることについて課題がある。【7】28.9%】
- ◆複合図形の求め方について課題がある。【10】59.1%】

**図形**

- ◆平行な直線の性質の理解について課題がある。【12】64.3%】
- ◆直方体における平面と辺の垂直、並行関係の理解について課題がある。【14】58.4%】
- ◆ひもの長さ、円の形の関係性を「根拠」「結論」を用いて説明することに課題がある。【17】54.7%】

**数量関係**

- ◆折れ線グラフの数値の変化の特徴を読み取ることに課題がある。【15】44.6%】
- ◆2つの量の変化を○、□などの記号を用いて式に表すことができる。【16(2)】55.7%】

## □指導のポイント

**授業づくりの工夫**

「根拠」「結論」を意識した算数的表現の指導を充実させる。また、児童の様々な考え方を交流させ、それぞれの考え方をまとめていくなどの活動を大切にする。

**数と計算**

倍概念は児童にとって理解が難しい学習内容の一つである。「倍はかけ算」「何倍かを求めるときはわり算」と言葉だけの指導ではなく、線分図や絵などで表現させるなどを通して倍の概念の理解を促進させる必要がある。

**量と測定**

複合図形の面積を求める活用の学習は、基本図形の求積の基本的知識・技能の習得を促進させる効用がある。しかし、多くの教科書においてはL字型の複合図形が取り上げられており、違う形の複合図形の求め方を問われると正答率が大きく落ち込む傾向がある。形にこだわるだけでなく、基本図形を活用する様々な考え方を交流させ、それぞれの考え方をまとめていくなどの指導の工夫が必要である。

**図形**

多くの児童が正しい考えを導いているものの不十分な記述が多い。「根拠」「結論」を意識した算数的表現の指導の充実を図る必要がある。

**数量関係**

折れ線グラフ等の指導においては、単純に数値の変化を表に書かせたり、「どこが一番高くなったか」「低いところは」など、答えを求めたりするだけの指導では習得は図れない。どの数量に着目したか印を付けさせるなど算数的活動を充実させながら、なぜ増減したのかなど要因を考えさせ、数量関係をグラフで表すことの良さに気付かせる指導を充実させたい。

**全体的な状況**

□小学校第5学年国語の平均正答率は58.3%である。  
 □話すこと・聞くことにおいて、昨年度比較 -29%で、特に「話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言すること」に課題がある。(H25年度 61.7% H26年度 32.7%)

**話すこと・聞くこと** 正答率：32.7%

◆話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言する。【七(1) 19.3%】

**書くこと** 正答率：67.2%

◆事実と意見などを区別し、目的や意図に応じて書く。【六(3) 59.3%】

**読むこと** 正答率：54.9%

◆必要な観点を選び、決められた文字数内で要約できる。【八(2) 39.9%】

**伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項** 正答率：66.0%

□指導のポイント

**授業づくりの工夫**

- ・単元全体や毎時間の見通しを持った授業の展開。
- ・「身に付けさせたい力」が見える「めあて」の設定。
- ・発表や、発言は、終わりの「。」まで話す「文」意識を持たせる。

**話すこと・聞くこと**

**話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言することができる指導の工夫【七(1)】**

○本設問では、選択肢の文末「～とよいと思います。」に特徴がある。また、選択肢の違いについて読み解くことを指導することに課題がある。

話の目的や意図は何か、自分に伝えたいことは何か、共に考えたいことは何かなど相手の話の内容を十分に聞き取るとともに、取り上げられた内容について、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめるようにすることが必要である。

**書くこと** **事実と意見などを区別し、目的や意図に応じて書くことができる指導の工夫【六(3)】**

○本設問では、「条件」に合わせて書くことに特徴がある。また、設問中に「映画館で…」とあるが、自分の身の回りのことを書いている児童が多々見られた。しっかり設問を読み、聞かれていることが何であるかを正確に把握することを指導することに課題がある。

高学年では、目的や意図に応じて、事実と感想、意見などを詳しく書いたり、簡単に書いたりするなどの事実と感想、意見のそれぞれの記述の仕方について理解させることが必要である。

**読むこと**

**情景描写の効果捉えることができるか指導の工夫【五(1)、五(3)】**

○本設問では、登場人物の気持ちを想像して「音読する」ことに特徴がある。思春期の児童にとって、感情を込めて音読するということは気恥ずかしいことであるが、実際に声に出して、相手に聞いてもらうなどの取組を行う必要がある。【五(1)】

登場人物の心情は、直接的に描写されている場合もあるが、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている場合もある。このような表現の仕方にも注意し、想像を豊かにしながら、読むことが必要である。

○本設問では、「文の始めの五文字を書き出すこと」に特徴がある。また、文は「。」で終わること、文の始めとは、文頭であることなどを理解させると同時に、原稿用紙の使い方についても再度指導する必要がある。【五(3)】

**本のよさを紹介するために、必要な観点を選び、決められた文字数内で要約できる指導の工夫【八(2)】**

○本設問では、紹介文の書き方に特徴がある。「紹介文の書き方」「要約の仕方」について指導することに課題がある。

要約は、要約するときの目的や必要に応じて元の文章のどの部分を取り上げるべきかが変わってくる。要約する目的を明確にし、分量や時間、元の文章の構成や表現の生かし方などを考え、要点や細かい点に注意しながら要約する経験を重ねることが必要である。

**伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項**

**漢字の特別な読み方や、同音異義語等の指導の充実【一、二】**

- 「八日（ようか）」で、「はつか」「はっか」「やっか」等の誤答がある。第一学年で、日にちについての読みを行っているが、日常的に正しく使用していないため、特別な読みがあることは知っていても使えるものになっていないことに課題がある。正しい読みを日常的に使用するよう指導することが重要である。
- 5学年では、5学年の漢字の読み、4学年の漢字の書き取りの習得が重要である。

**言葉の意味と使い方の理解【三、四】**

○意味から使い方を考えることに課題がある。意味から使い方を考える場合、文字だけを読むのではなく、場面設定をしっかり行い、大意を押えることを指導する必要がある。

**全体的な状況**

- ・小学校第5学年算数の平均正答率は58.8%である。
- ・正答率30%以下の児童の割合は5.9%、無解答率が10%を超えている問題は「C図形」の2問と「単位量あたりの大きさ」や「百分率」を含んだ活用に関する問題の2問である。
- ・領域別の平均正答率は、「数と計算」69.1%、「量と測定」59.7%、「図形」42.6%、「数量関係」51.3%であり、「図形」の問題や日常の事象を数理的に捉える数理的に捉える問題、複数の学年・領域の関連を図った活用の問題に課題がある。

**数と計算**

- ◇四則混合や( )を用いた式の処理については、前年度と比べ、改善している。【1(3) 78.2%】
- ◆帯分数の処理や約分を行い、(分数)×(整数)の計算をすることに課題がある。【1(5) 31.5%】
- ◆分数について、「単位分数の幾つ分」かで表すことの理解に課題がある。【3 16.7%】

**量と測定**

- ◇「何倍か」を求めたり「1mあたりの重さ」を求めたりすることについて、数直線を用いて考え、立式することは、前年度と比べ改善している。【8(1) 76.1%】【8(2) 76.2%】
- ◆量を求めたり比較したりするために、異なる単位を一つの単位にそろえることに課題がある。【5 79.8%】【6 72.7%】【7 39.3%】
- ◆取れ高を比較するために畑の面積(平行四辺形や台形)を求め、「単位量あたりの大きさ」の考えによって判断したことを、言葉や式を用いて説明することに課題がある。【16 12.8%】

**図形**

- ◆示された条件をもとにして箱をつくるために必要な構成要素(面の大きさと数)を考え、材料の大きさに合わせて長方形を切り取ることに課題がある。【9 31.9%】
- ◆示された図形の構成要素について考えたり、図形の定義や性質を用いて判断したことを説明(記述)したりすることに課題がある。【10 43.5%】【11 18.7%】

**数量関係**

- ◆示された情報を整理して「A市の大観覧車より40%小さい」とされているB町の観覧車の直径を求め、その円周を求める等、目的に応じていくつかの単元で身に付けたことを組み合わせ、思考・判断して表現(本問では記号的表現、式表現)することに課題がある。【17 11.9%】

## □指導のポイント

**授業づくりの工夫**

- ・内容の構成上当該学年で指導すべき内容について、まとめ、適用問題、評価等を45分内に収める「授業タイムマネジメント」を意識して授業を計画するとともに、児童の実態に応じて適切に「学び直し」や「反復練習」の場を設定し、確実な定着を図る。
- ・図形の定義や性質、計算のきまりなどの基礎的・基本的な内容について、問題解決や説明、日常との関連を図る等の活用の場を指導計画に位置付ける。

**数と計算**

- ・「数直線作り」(小学校学習指導要領解説算数編P100)などの算数的活動を取り入れ、分数は「単位分数の幾つ分」で表せることを理解させる。

**量と測定**

- ・様々な具体物について大きさを調べたり、確かめたりする作業的・体験的な活動を積極的に取り入れ、単位や量の大きさについての感覚を豊かにする。

**図形**

- ・四角形をドット図にかいたり、紙を折って作ったりする活動、平面を敷き詰める活動、身の回りの具体物の中から四角形の形をしたものを取り出す活動等により、図形の構成要素に着目させ、その特徴を実感的に理解させる。
- ・図形の定義や性質を用いて児童が説明したりノートに書いたりする活動を意図的に計画する。

**数量関係**

- ・問題文の文脈に即して式に表す活動を設け、算数の言語である式に対する理解を深める。
- ・割合や百分率の指導については、低学年から積み重ねてきた「〇〇の幾つ分」(規準量×割合)の考えを土台とし、それから乖離して「比較量÷基準量=割合」等の公式に問題文の数値をあてはめるばかりにならないよう心がける。公式は確実に身に付けさせ、活用できるよう練習を十分積みませつつ、単元を通して「何と何を比べようとしているのか」、「数直線に表すとどのような関係か」等と問い、「割合」の意味の捉え直しを折に触れて行う。

**全体的な状況**

- ・小学校第5学年理科の平均正答率は61.6%である。
- ・正答率が80%以上の設問は22問中5問で、正答率が50%未満の設問は7問である。
- ・観察・実験の結果から言えることを問う問題と記述式の問題に課題が見られる。

**A 物質・エネルギー**

- ◇コイルの巻き数と電磁石の磁力の強さの関係が理解できている。【2】(1)87.6%】
- ◆電磁石と永久磁石の作用を類推することに課題がある。【2】(3)18.8%】
- ◇ふりがが1往復する時間を調べ考察することができる。【4】(1)83.3%】 【4】(3)80.4%】
- ◆水にものが溶けたとき質量が保存されていることの理解に課題がある。【6】(1)44.6%】
- ◆水の量と溶けるものの量の関係をグラフから読み取ること課題がある。【6】(2)45.1%】
- ◆水の温度と溶けるものの量の関係を具体的な物質名をあげて説明することに課題がある。【6】(4)24.3%】

**B 生命・地球**

- ◆種子の発芽する条件を調べる実験の結果から言えることの理解に課題がある。【1】(2)45.7%】
- ◇メダカを飼育するときの工夫とその理由を理解している。【3】(1)87.5%】
- ◆メダカを飼育するための環境管理についての理解が不十分である。【3】(2)34.4%】
- ◇メダカが卵からふ化するまでの様子を理解している。【3】(3)98.3%】
- ◆曲がった川の浸食作用と堆積作用を川の流れの速さと関係づけて説明することに課題がある。【5】(2)35.8%】

## □指導のポイント

**授業づくりの工夫**

- ①科学的な知識や概念を根拠に観察・実験の結果を分析し解釈して説明する問題に課題が見られることから観察・実験の結果から結論を導く指導を充実する必要がある。結論を教師が解説するのではなく、児童自らが結論を導く指導を大切にす。
- ②観察・実験の手順や方法、条件制御について説明するだけでなく、その理由をしっかりと理解させる指導を大切にす。
- ③観察・実験で扱う対象物が変わっても、学んだ科学的な見方や考え方をあてはめて問題を解決しようとする姿勢を育てる。

**種子の発芽**

種子が発芽する条件を理解させることも大切ですが、実験結果のどの部分を比較することで水分や適当な温度が必要であることがわかるのか、あるいは種子の発芽に光が関係しないことがわかるのかを説明させる指導を大切にす。

**電磁石**

永久磁石と電磁石をまったく別のものとして扱うのではなく、共通点と相違点を整理して電磁石も永久磁石と同じような働きをすることを類推させるような指導を大切にす。

**動物の誕生**

メダカの飼育方法で注意すべき点を指導する際、単にやってはいけないことを覚えさせるだけでなく、その理由を丁寧に指導する。

**振り子の運動**

経験したことのないような実験に対しても、これまで学習した科学的な知識を積極的に活用する姿勢を育てる。

**流水の働き**

曲がった川で見られる地形を指導する場面で、なぜそのような地形になるのか児童がしっかりイメージして説明できるように指導する。

**物の溶け方**

教科書によっては、ミョウバンやホウ酸を扱っていないものもありますがグラフを読み取り実験結果から言えることをまとめる指導を大切にす。



**全体的な状況**

- ・小学校第6学年算数の平均正答率は57.6%である。
- ・正答率が80%以上の問題は28問中9問、正答率が50%未満の問題は13問である。
- ・無解答率が高い問題が2問あり、示された情報を基に筋道を立てて考え説明することに課題がある。
- ・領域別の平均正答率は、「数と計算」71.1%、「量と測定」46.7%、「図形」62.2%、「数量関係」38.6%である。

**数と計算**

- ◇整数、小数、分数の四則計算をすることは、相当数の児童ができている。  
【1(1) 90.8%】【1(2) 88.9%】【1(3) 84.4%】【1(4) 87.0%】【1(6) 91.2%】【2 82.4%】
- ◆四捨五入で数を適切に処理することに課題がある。【3 17.6%】※H25：5年追加調査65.8%
- ◆単位分数のいくつ分かで表すことに課題がある。【4 34.8%】※H25：5年追加調査28.5%
- ◆示された情報を整理し、条件に合う答えを求めることに課題がある。【17(1) 62.7%】

**量と測定**

- ◇円を分割して並べ替えた図形と元の円を対応させて、円の面積の求め方を考えることは、相当数の児童ができている。【5(1) 85.1%】
- ◇表を正しく読み取ることは、相当数の児童ができている。【14(1) 98.1%】
- ◆時計の長針と短針で作る角の大きさを求めることに課題がある。【6 40.9%】
- ◆単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解することに課題がある。【7 44.5%】
- ◆示された情報を基に、条件に合う答えを求めることに課題がある。  
【合同：8 41.0%】【距離：16(1) 35.9%】【時間：16(2) 8.6%】

**図形**

- ◆三角形の合同条件理解し、条件に合う答えを選択することに課題がある。【9 37.0%】
- ◆示された条件を基に、点対称な図形を完成させることに課題がある。【10(1) 69.4%】【10(2) 56.2%】
- ◆拡大図と縮図の関係を理解し説明することに課題がある。【15 59.7%】

**数量関係**

- ◆示された情報を基に、条件に合う答えを選択することに課題がある。  
【折れ線グラフ：11 40.9%】【百分率：12 39.7%】【比：13 37.3%】
- ◆示された情報を基に筋道を立てて考え、条件に合う答えを求めることに課題がある。【17(2) 36.4%】

## □指導のポイント

**授業づくりの工夫**

示された条件に基づいて自分の考えを説明することに課題が見られることから、情報を選択・整理し、根拠を示して結論を導く指導を充実させる。また、根拠が不足している説明を基に、よりよい表現に洗練していく活動を大切にする。

**数と計算**

- ・概数の表す範囲については、数直線を基に一番大きい数と一番小さい数を考えて範囲を調べられるようにするとともに、以上、以下、未満の意味と用語についても指導する。
- ・整数が1を単位として構成されるのと同じように、分数は単位分数を基に構成されることを指導する。

**量と測定**

- ・回転角の学習は、角を量の仲間として捉えさせることが大切である。児童は小さい角の大きさに目が奪われる傾向があるため、半回転の角は2辺が同じ直線上にくること、1回転の角は平面全部の角をおおうことを、操作を通して明確に理解できるよう指導する。
- ・単位量当たりの大きさでは基準量に着目させ、比較量、割合の関係をテープ図や線分の図、数直線の図などを活用し、明確にイメージできるよう指導する。

**図形**

- ・合同な三角形をかく学習では、三角形の6要素（3つの辺、3つの角）のうちなるべく要素を少なくしてかく方法を工夫させ、以下の3つの場合があることに気付かせる。  
(1) 3辺の長さ、(2) 2辺の長さとその間の角の大きさ、(3) 1辺の長さとその両端の角の大きさ
- ・点対称、線対称の学習では、図形を作図する活動を通して性質に着目させ、性質から定義をまとめる授業を展開する。
- ・拡大図や縮図の関係にある図形は、対応している角の大きさ、対応している辺の長さの比に着目させ、形が同じであるかどうかの観点から図形を捉えさせるように指導する。

**数量関係**

- ・折れ線グラフが何を表しているか考え、折れ線グラフで表すとよいものを理解することができるように指導する。（折れ線グラフでは、横軸は時間などの連続した量を表している。）
- ・百分率は、確定的な事象の関係や不確定的な事象に関しても用いられるため、日常生活の中から百分率が用いられる事象を探すなどの活動を通して、算数が生活の様々な場で用いられることに気付くことができるように指導する。
- ・比は、日常生活のいろいろな場面で用いられるので、日常生活の中から比が用いられる事象を探したり、それを活用して物事を処理したりするような活動を行うなど、指導方法を工夫する。

# 平成26年度沖縄県学力到達度調査（中学校）の結果

沖縄県教育庁義務教育課

## 1 趣 旨

沖縄県学力到達度調査は、本県児童生徒一人一人の基礎的・基本的な知識・技能及びこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の定着状況を把握するとともに、各学校における授業改善の充実を図るために実施する。

## 2 実施期日及び対象

- (1) 1日目 平成26年12月4日（木） 中学校第2学年の全生徒
- (2) 2日目 平成26年12月5日（金） 中学校第1学年、第2学年の全生徒  
（中学校第1学年は数学のみ実施）

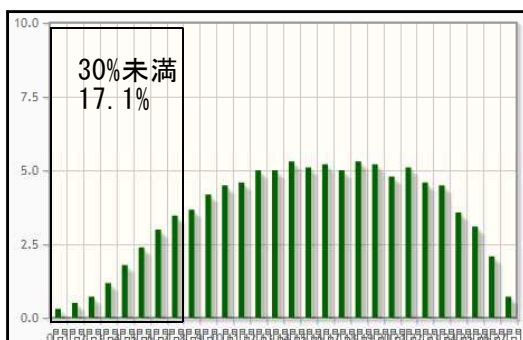
## 3 実施教科

- (1) 1日目 国語、理科、英語
- (2) 2日目 数学（1・2学年同時実施）、社会

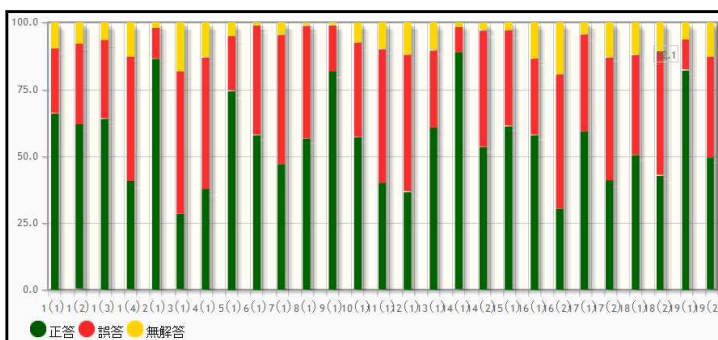
## 4 実施結果（H26. 12月17日現在）

### 〈 中学校第1学年数学 〉

	生徒数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	15,291	56.1%	35.7%	8.2%



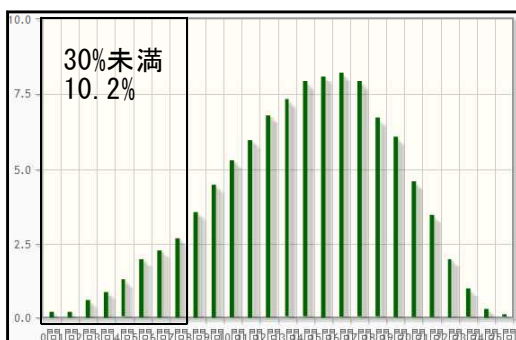
正答数の度数分布



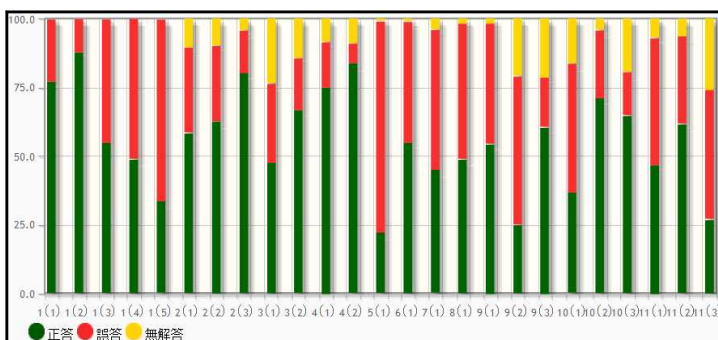
設問ごとの正答率・誤答率・無解答率

### 〈 中学校第2学年国語 〉

	生徒数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	14,960	55.7%	35.8%	8.5%



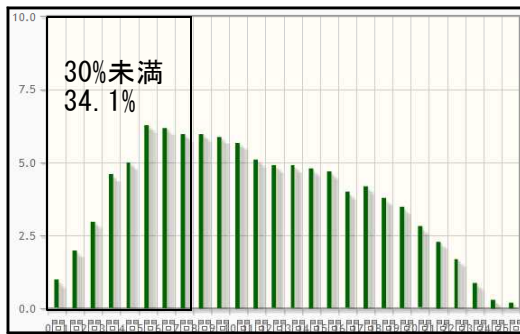
正答数の度数分布



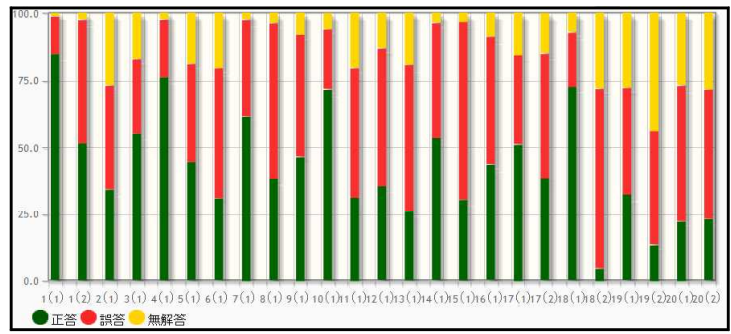
設問ごとの正答率・誤答率・無解答率

〈 中学校第2学年数学 〉

	生徒数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	14,932	43.0%	42.2%	14.9%



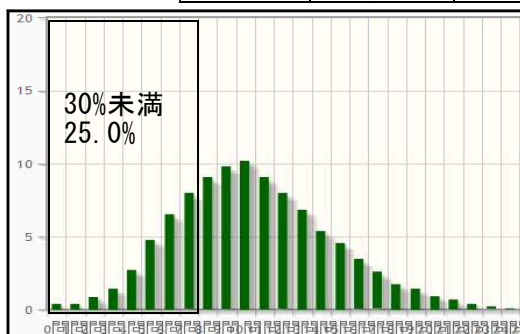
正答数の度数分布



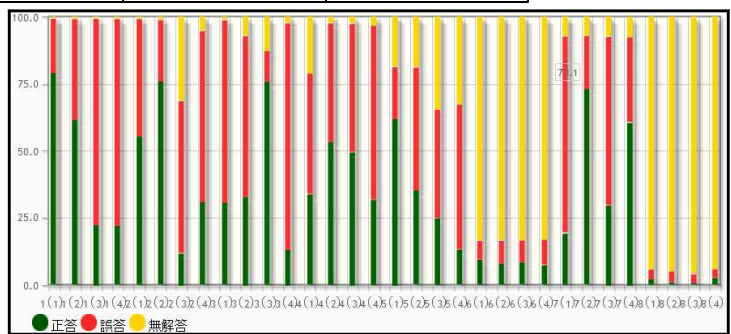
設問ごとの正答率・誤答率・無解答率

〈 中学校第2学年理科 〉

	生徒数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	14,978	43.2%	50.9%	5.9%



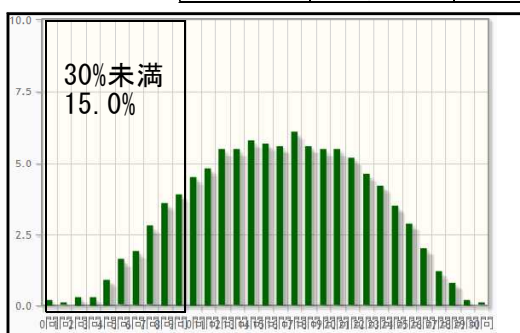
正答数の度数分布



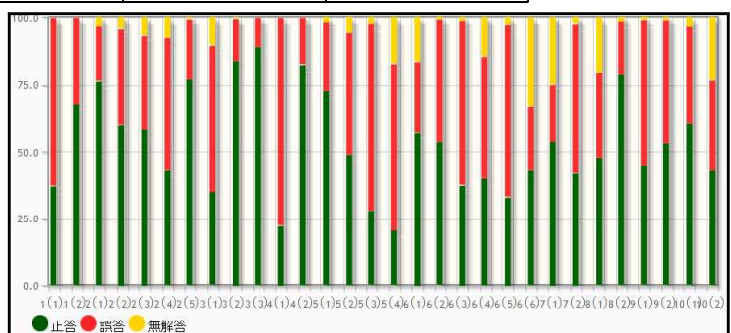
設問ごとの正答率・誤答率・無解答率

〈 中学校第2学年社会 〉

	生徒数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	14,975	53.0%	39.9%	7.1%



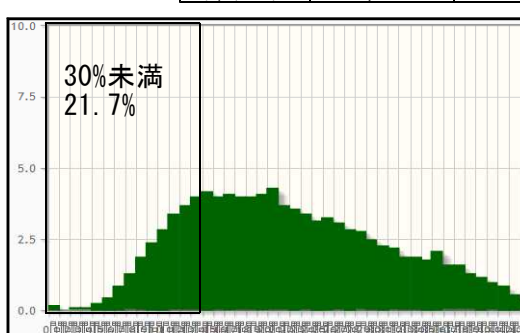
正答数の度数分布



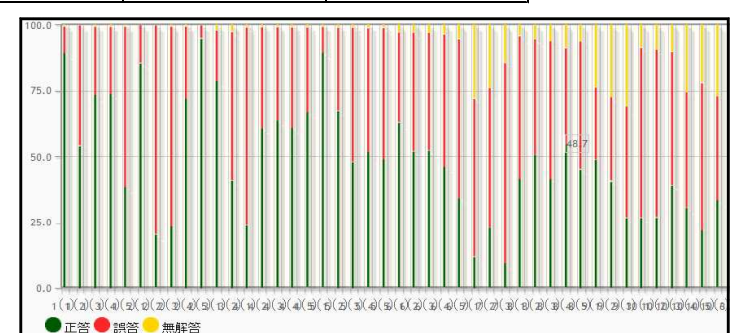
設問ごとの正答率・誤答率・無解答率

〈 中学校第2学年英語 〉

	生徒数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率
沖縄県	14,967	48.7%	43.9%	8.4%



正答数の度数分布



設問ごとの正答率・誤答率・無解答率

**全体的な状況**

- ・中学校第1学年数学の平均正答率は56.1%である。
- ・正答率が80%以上の問題は27問中4問、正答率が50%未満の問題は27問中10問である。
- ・無解答率が10%を超えている問題が11問(小学校第6学年領域3問、中学校第1学年の領域8問)あり、領域別では数と式4問、図形2問、関数4問、資料の活用1問となっている。
- ・領域別の平均正答率は、数と式55.9%、図形55.3%、関数48.0%、資料の活用67.1%となっており、中学校第1学年の既習事項の定着に課題がある。(授業改善と補習指導が必要)

**数と式**

- ◇文字式の意味を理解することについては、相当数の生徒が理解できている。【2】86.5%】
- ◆簡単な一次式を計算することに課題がある。【1】(4) 40.6%】
- ◆係数に分数を含む場合の一次方程式を解くことに課題がある。【3】28.3%】
- ◆文字式を用いた式の値を求めることに課題がある。【4】37.8%、【17】(2) 40.9%】

**図形**

- ◇縮図の性質を理解することについては、相当数の生徒が理解できている。【9】81.7%】
- ◆円の面積を求めることに課題がある。【7】46.8%】
- ◆縮図のかき方を説明することに課題がある。【16】(2) 30.4%】

**関数**

- ◆変域を不等式に表すことに課題がある。【11】40.1%】
- ◆比例の関係を式に表すことに課題がある。【12】36.7%】
- ◆具体的事象のグラフを読み取り、説明することに課題がある。【18】(2) 42.6%】

**資料の活用**

- ◇起こりうる場合を順序よく整理することについては、相当数の生徒が理解できている。【14】(1) 89.0%】
- ◇資料を比較し、違いを読み取ることにについては、相当数の生徒が理解できている。【19】(1) 82.1%】
- ◆資料の特徴を捉え、示された条件で説明することに課題がある。【19】(2) 49.7%】

## □指導のポイント

**授業づくりの工夫**

授業においては「事実・事柄の説明」「方法の説明」「理由の説明」を意識した言語活動を充実させる必要がある。また、全国学力・学習状況調査や県到達度調査の活用問題を授業で扱ったり、年間指導計画に位置付けたりするなど、授業改善に生かすことが大切である。

**数と式**

- ・基礎的な計算は、宿題や補習を通して日常的に復習するなど、定着を確実に図るようにする。
- ・文字式を用いた式の計算についても、数の計算と同様に項の考え方が使われたり、計算の法則が保たれたりするなど、数の世界と関連付けて考えることができるようにする。
- ・等式の性質を基にして方程式を解く学習においては、式を形式的に操作して解を求めることができるよさとともに、等式の性質が式変形の根拠になっていることを理解できるようにする。

**図形**

- ・図形の指導においては、図形を視覚的に捉えたり、定義や性質を確認したりする活動を重視するとともに、活動の過程を数学的に表現できるようにする。

**関数**

- ・変域の意味や特徴をグラフを通して視覚的に捉えさせ、数式で表現できるように指導する。
- ・具体的な事象について、そのグラフが何を表しているのかを考え、説明する活動を重視する。

**資料の活用**

- ・度数分布表やヒストグラムを作成するなどの「資料を整理すること」を学習目標とせず、度数分布表やヒストグラムを活用して、資料の特徴を捉えさせる指導を行う。
- ・「数学用語」を用いて、適切な表現で説明する活動を取り入れた指導を行う。

**全体的な状況**

- ・中学校第2学年国語の平均正答率は55.7%である。
- ・領域等の平均正答率は、「話すこと・聞くこと」46.5%、「書くこと」50.4%、「読むこと」52.2%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」58.0%である。

**話すこと・聞くこと**

- ◆互いの発言を検討し、相違点を整理することに依然として課題があり、指導の充実が求められる。【九2 25.0%】
- ◆話の論理的な構成や展開などに注意して聞くことに依然として課題がある。【九1 54.3%】

**書くこと**

- ◆伝えたい事実や事柄について、資料から適切な情報を得て、自分の考えや気持ちを根拠を明確に伝えるように書くことに、依然として課題がある。【十一3 26.8%】

**読むこと**

- ◆目的に応じて必要な情報を読み取ったり、要約したり要旨を捉えることに課題がある。【十一1 46.6%、十一3 26.8%】

**伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項**

- ◆文脈の中で漢字を正しく書くこと、漢字を正しく読むこと、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うことについては、一部に課題がある。  
【一4(お尋ねになる)48.7%、一5(舌を巻く)33.6%、二1(ちょうぼう)58.1%、三1(拝む)47.5%】
- ◆行書の特徴、単語の類別及び表現技法について、理解することに課題がある。  
【五 22.3%、七 44.9%、八 48.7%、十一 36.6%】

□指導のポイント

**授業づくりの工夫**

- ・生徒の主体的な学習活動（言語活動）を設定し、一人一人の思考力・判断力・表現力を評価することがこれからの授業づくりの視点には大切である。その際、学習活動が身に付けさせたい力（各領域の指導事項）にふさわしい言語活動になっているか吟味することが重要である。
- ・主体的な学習態度の育成のために、生徒が学習の見通しを立てたり、振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。単元の導入時に生徒が学習活動の全体を見通すことができるような説明や活動を設定する必要がある。

**話すこと・聞くこと**

**相手の立場や考えを尊重し、観点に沿って発言を整理して聞くなどの指導の工夫**

音声言語による様々な活動においては、発言者の立場や考えを尊重し、目的に沿って聞いたり話したりすることが大切である。指導の際には、話合いの目的とそれにふさわしい言語活動の設定が重要であり、インタビューや対談、討論など、目的を明確にした言語活動を通して、必要な話し方・聞き方（共通点や相違点等）の観点を整理し、具体的に指導することが必要である。

**書くこと**

**複数の情報の内容を適切に捉え、根拠としてまとめ、意図や目的に応じて書く指導の工夫**

実生活において、目的や意図に応じた文章を書く際には、調べたことを羅列するだけでなく、複数の情報の内容を正確に捉え、相手や目的に応じて取舍選択したり関係付けたりして書く内容を適切に組み立てることが必要であり、授業ではこれらを意識した言語活動の設定が必要である。その際、取り上げる内容は根拠として適切か、それらを用いて書いた文章が伝えたい事柄を正確に伝えるものになっているか、などの観点で文章を見直すよう指導することが重要である。

**読むこと**

**目的や意図に応じて必要な情報を読み取る指導の工夫**

資料を読んで必要な情報を正確に読み取ったり、要旨を捉えたりする力を身に付けるために、目的に沿って資料の内容を整理したり、自分の言葉で言い換えたりする学習活動を設定することが大切である。そしてそれらの内容が、目的に合っているか、使用した資料の内容を適切に取り上げているかどうかを確認するように指導する必要がある。

**伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項**

**広がりのある語彙、漢字指導の充実と表現技法を各領域の指導に生かす工夫**

言葉への関心を高め言語感覚を豊かにするために、辞書等を使って、なじみの薄い語句や使用頻度の低いと思われる漢字などを積極的に調べたり、文脈の中で解釈したりする指導を意図的に設ける必要がある。また具体的な言語活動の中で比喩や体言止めなどの表現技法を使い、改めてその意味（必要性や効果等）について考え、理解するよう指導することが大切である。

**全体的な状況**

- ・中学校第2学年数学の平均正答率は43.0%である。
- ・正答率が80%以上の問題は1問、正答率が50%未満の問題は25問中16問である。
- ・主として「知識」に関する問題では、無解答率が約10.6%、主として「活用」に関する問題で、無解答率は24.1%である。
- ・主として「活用」に関する問題においては大きな課題があり、特に説明を求める問題の平均正答率は、22.2%となっている。
- ・領域別平均正答率(%)は、「数と式：51.9」「図形：49.2」「関数：32.1」「資料の活用：29.8」となっており、すべての領域において課題が見られる。

**数と式**

- ◆分数を含む一元一次方程式を解くことに課題がある。【2】 34.1%】
- ◆等式の変形をすることに課題がある。【5】 44.3%】
- ◆数量の大小関係を不等式で表すことに課題がある。【6】 31.1%】

**図形**

- ◆円錐の体積を、底面が合同で高さが等しい円柱の体積との関係から理解することに課題がある。【8】 38.2%】
- ◆多角形の内角や外角の意味を理解することに課題がある。【9】 46.5%】

**関数**

- ◆比例の関係を式に表すことに課題がある。【11】 31.4%】
- ◆関数の意味を理解することに課題がある。【12】 35.5%】
- ◆一次関数の表の特徴を基に変化の割合を求めることに課題がある。【13】 25.9%】

**資料の活用**

- ◆中央値の意味を理解することに課題がある。【15】 30.4%】
- ◆度数分布表から目的に応じた割合を求めることに課題がある。【16】 43.2%】

## □指導のポイント

**授業づくりの工夫**

これまでの全国学力・学習状況調査問題や県到達度調査問題から課題の見られた問題を中心に出题されているが、県全体の正答率からみると改善されていない問題も多いことから、全国学力・学習状況調査や県到達度調査の活用問題を授業で扱ったり、年間指導計画に位置付けたりするなど、授業改善に生かすことが大切である。

B問題では、特に説明を求める問題の平均正答率が22.2%となっており、大きな課題がみられることから、授業においては「事実・事柄の説明」「方法の説明」「理由の説明」を意識した言語活動を充実させる必要がある。

**数と式**

- ・「一元一次方程式」を解く際に、等式の性質を適切に用いて、正しく解を求めることができるようにするために、方程式を解く過程やその結果を確かめる活動を取り入れる。
- ・事象において比べようとする数量に着目し、数や文字を用いた式で表し、不等号を使って「数量の大小関係を不等式で表す」ことができるようにする。

**図形**

- ・柱体と錐体の体積の関係を実感を伴って理解できるように、模型を用いた実験による測定を行って確かめる場面を設定する。また、円錐、円柱、球の体積の公式は、互いに関連づけて指導する。

**関数**

- ・比例式に  $x$  や  $y$  の値を代入して定数を求めるだけでなく、表やグラフに表し、比例定数について見直す活動を取り入れ、その意味理解を深める。
- ・日常的な事象の中にある2つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす活動を取り入れる。その際に独立変数と従属変数との違いを意識して「…は…の関数である」という形で表現できるようにする。

**資料の活用**

- ・目的に応じてデータを収集して整理し、資料を代表する値について考察しながら資料の傾向を読み取る活動を取り入れる。

**全体的な状況**

- ・中学校第2学年理科の平均正答率は43.2%である。
- ・正答率が80%以上の設問はなく、正答率が50%未満の設問は、32問中、23問である。
- ・設問別では選択問題の「電流とその利用（陰極線）」及び「気象とその変化」の問題に課題がある。

**第1分野（物理的領域）**

- ◆浮力が水中の物体の体積によることへの理解が不十分である。【1】(3) 22.4% 【1】(4) 22.0%
- ◆密度の計算と密度による物質の識別に課題がかかる。【2】(3) 12.0% 【2】(4) 31.0%

**第1分野（化学的領域）**

- ◆燃焼と、その化学反応式の理解に課題がある。【5】(3) 29.5% 【5】(4) 15.7%

**第2分野（生物的領域）**

- ◆花のつくりを理解し被子植物と裸子植物の共通点を見出すことに課題がある。【3】(4) 13.4%

**第2分野（地学的領域）**

- ◆実験結果から得られた数値をもとに湿度を求めることに課題がある。【8】(1) 12.5%
- ◆雲のでき方について間違いを訂正することに課題がある。【8】(2) 6.6%
- ◆雲のでき方と水蒸気の観点で、日本の天気を説明することに課題がある。【8】(3) 5.2%
- ◆海と陸の暖まりやすさの違いから、雲のできかたを推測することに課題がある。【8】(4) 17.4%

## □指導のポイント

**授業づくりの工夫**

科学的な知識や概念を根拠に観察・実験の結果を分析し解釈して説明する問題に課題が見られることから、観察・実験の結果から結論を導く指導を充実する必要がある。

また、計算を要する問題に課題が見られることから、「密度」「濃度」「圧力」「定比例の法則」「オームの法則」「電力」「電力量」「熱量」「湿度」「仕事」「仕事率」等の式や単位の成り立ちについての指導を充実する必要がある。

**第1分野（物理的領域）**

浮力は水圧に起因し、水圧は水深に比例するが浮力は物体の水に沈んでいる部分の体積に比例し、水深には関係しないことをていねいに指導する必要がある。

また、密度の指導にあたっては様々な物質の密度を求めることだけに終始するのではなく、密度が物質を識別する一つの視点になることも確実に指導したい。

**第1分野（化学的領域）**

物質を化学式で表現することや、化学変化を化学反応式で表現することに偏った指導にならないようにし、物質を原子・分子のモデルを用いて考えることよさや化学反応式から読み取れることを指導すること、化学反応式の有用性を実感できる指導を充実する必要がある。

**第2分野（生物的領域）**

花を植物の生殖器官としてとらえ、被子植物でも裸子植物でも種子をつくるために最低限必要な胚珠と花粉をもっている必要があることを理解させたい。

また、心臓のつくりは各部屋や血管の名称を理解させるだけでなく、心臓の弁や収縮と血液の流れ、肺との接続といった循環全体の中で、その役割を含めて理解させる指導を大切にしたい。

**第2分野（地学的領域）**

火成岩や堆積岩の種類を理解させるだけでなく岩石の粒の大きさや形などの特徴から、岩石を識別できるようにする指導を大切にすることが必要である。

湿度の計算についても、気温と飽和水蒸気量から湿度を計算できるようにする指導だけでなく、その気温で含むことのできる水蒸気の限度に対して何%の水蒸気が含まれているかによって空気の湿り具合を表していることを理解させる指導を充実することで活用力が高まると考えられます。

雲ができるしくみや日本の天気の特徴を教師が解説するだけでなく、上昇気流や露天といった語句を用いて説明させる指導を充実する必要がある。

**全体的な状況**

- ・中学校第2学年社会の平均正答率は53.0%である。
- ・領域別の平均正答率は地理〔世界〕53.9%、地理〔日本〕62.6%、歴史〔古代〕46.0%、歴史〔中世〕53.3%となっており、各領域において「記述式」問題に課題がある。
- ・無解答率が20%以上の問題が4問あるが、共に「記述式」の問題である。(3問が文章を完成させる記述問題、1問が漢字で答える問題)

**地理1(1)〔世界〕**

- ◆様々な情報を整理し効果的にまとめるなどの、地理的技能に課題がある。【5(3) 28.0%】
- ◆日本と世界各地の時差を求めるなどの、地理的技能に課題がある。【5(4) 20.8%】

**地理1(2)〔日本〕**

- ◇日本の地形がわかる(阿蘇山)について相当数の生徒が理解できている。【3(2) 84.1%】
- ◇日本の地方区分がわかる(九州地方)について相当数の生徒が理解できている。【3(3) 89.0%】  
一方で、九州内の佐賀県の理解については課題がある。【3(1) 54.7%】
- ◇日本の範囲がわかる(北方領土)について相当数の生徒が理解できている。【4(2) 82.2%】
- ◆日本の排他的経済水域のおおよその面積の理解について課題がある。  
【4(1) 正答率22.5% 不正答率77.5%】

**歴史2(2)〔古代〕**

- ◆古代東アジアの国際関係の理解について課題がある。【6(5) 正答率33.1% 不正答率66.9%】

**歴史2(3)〔中世〕**

- ◆徳政令後の鎌倉幕府についての理解に課題がある。【7(2) 正答率41.9% 不正答率58.1%】

## □指導のポイント

**授業づくりの工夫****資料を読み取ったり、説明するなどの活動を授業に取り入れる**

授業の中で様々な資料を比較・関連・総合して考えさせる場面や、考えをまとめたりする場面を設けるように努める。また、単元テストや定期テストにおいても、記述を求める問題や、資料を読み取る問題を出題していくことが大切である。

**地理1(1)〔世界〕 地理1(2)〔日本〕 歴史2(2)〔古代〕 歴史2(3)〔中世〕****社会科学習を進めていく上で欠かせない、重要な語句や事項の確実な定着**

単元で押さえるべき知識を使って、課題を解決していく授業を実践し、重要事項の確実な定着を図っていくことが重要である。

**地理1(1)〔世界〕****効果的に地図や地球儀、IT機器を活用して考えさせる授業の工夫**

日本と世界各地の時差を求める問題は23年度から連続して出題されているが、今年度も正答率が低く、課題克服には至っていない【5(4)正答率20.8%】。日々の授業で地図や地球儀を効果的に活用することに加え、特に地球の姿の概念形成や、時差の概念の理解促進に有効であるIT機器を効果的に活用した授業を、積極的に実践していく必要がある。

**歴史2(2)〔古代〕 歴史2(3)〔中世〕****単元の中で、各時代の流れや文化の様子を大観させる授業場面を設定する**

「○○時代は□□な時代であった」等、時代の特徴をまとめさせ、大観させる活動を行うことで、各時代の繋がりや、時代に対する理解・認識を深めることができる。その際、日頃から「書くこと」でまとめる作業や、言葉で表現する等、思考・判断・表現する活動を積極的に取り入れることが重要である。

**※沖繩(琉球)の地理・歴史・文化**

「沖繩の地理・歴史・文化」の基本事項について、教師の工夫で年間指導計画に盛り込んでいく1(1)の「琉球の位置と範囲がわかる」の正答率は37.1%にとどまった。沖繩(琉球)の地理・歴史・文化を問う問題については、教師側が基礎的・基本的なものであると認識している事項であっても、生徒にはなかなか定着していない場合が多い。「身近な地域」である沖繩に関する基本事項を、工夫して教科の年間指導計画に盛り込み、生徒に伝えていく場面を設定することが重要である。



**全体的な状況**

- ・中学校英語の平均正答率は48.7%である。
- ・「読むこと」、「書くこと」においては、依然として基礎的、基本的な知識・技能の習得及び活用する力に課題がある。
- ・各設問の正答率を経年比較し、領域別に課題とみられる設問を取り上げる。

**聞くこと**

- ◆情報を正確に聞き取る問題はおおむね正答率はよい。概要や要点を適切に聞き取る設問  
H25【2】(3)24.8 (4)53.2、H26 2(1)20.2% (3)23.5%

**話すこと**

- ◆生徒の身近な暮らしにかかわる場面や状況における適切な表現を選択する設問  
H24【5】(2)27%、H25【5】(5)38.9%、H26 5(3)48% (5)48.9%

**読むこと**

- ◆あらすじや大切な部分を正確に読み取る設問  
H24【10】(5)53.5%、H25【10】(5)52.8%、H26 10(5)21.9%  
H25【10】(6)31.9%、H26 10(6)27.4%

**書くこと**

- ◇大問8の文構造を問う設問は、正答率の上昇とともに無解答率も減少している。  
(1)「What＋名詞」H24(5)20.7% (無8.7%)、H25(4)36.6%(無6.2%) ⇒ H26(1)41.4%(無4.3%)  
(4)「There is～」H25(5)44.4%(無10.4%) ⇒ H26(4)54.6%(無8.9%)
- ◆大問7(3)は、疑問文と応答文の関連及び動詞の時制などの理解  
H24(4)15.6%(無16.7%)、H25(4)9.7%(無15%)、H26(3)9.7%(無14.3%)
- ◆条件に則り主語と動詞を使って複数文を書くこと  
H24とH25は2文書く設問で、平均正答率は46.9%(無解答率33.6%)であったが、H26は3文書く設問で、正答率は26.8%(無解答率31.1%)である。3文になると課題である。

## □指導のポイント

**授業づくりの工夫**

- ①教科書を工夫し活用する。(行間や本文の続きの英文挿入、自分に置き換えての表現する 等)
- ②本時の目標文の提示とまとめの時間におけるスキル(本時で習得したこと、英文)の定着を図る。
- ③生徒が自身のことや意見を表現(聞く・話す・読む・書く)したくなるような題材の設定
- ④グループの編成方法(information gap があるペア編成等)及び活動の工夫

**4 技能のバランスのとれた言語活動の充実を通して実践する。**

- ①語彙力、文法力などの基礎的・基本的な知識、技能の習得のための授業改善(例 新出文法事項を既習事項と関連付けて導入・活動する→タスク活動)
- ②英語発信・表現活動の充実(発表側の英文チェックや修正、聞く側の英語力向上や自己の英文確認や「書く言語活動」に生かすための支援→PE、原稿配布、効果的なプレゼンテーション等)
- ③事実や自分の考え、気持ちを伝えたり、賛否やその理由を伝えたりする等の思考場面の充実
- ④生活に根付いた活用場面の設定

**聞くこと** まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る指導の工夫

- ・聞きなが5W1Hを意識しメモを取らせる、事前に聞き取るポイントを示す、聞き取れない部分は内容を予測させた後にスクリプトを配布するなど段階的に指導する。

**話すこと** 生徒の身近な暮らしにかかわる場面や状況における適切な表現を自ら考える指導の工夫

- ・具体的でわかりやすい場面や状況を設定するとともに、自分のことを表現したり、相手の話を聞いてそれに対して適切に回答できるように教材を工夫する。

**読むこと** 物語のあらすじや説明文の大切な部分を正確に読み取る指導の工夫

- ・生徒の学習段階において計画的にまとまりのある文章を読む機会を与え、英語で文章を読むことの楽しさを味わわせたり、目的をもって説明文を読み必要な情報を取り出すなど、指導の工夫をする。 ※「英語ネットEasy Reading for Students」(文部科学省HP)の活用

**書くこと** まとまりのある文章を書かせる指導の工夫

- ・文法については、コミュニケーションを支えるものにとらえ、コミュニケーションを実際に行う2以上の文法事項を取り入れた言語活動を使用場面に関連付けて指導する。